実はわれわれの提言のなかに，うろ憶えだが生産者のみならず研究者，行政担当者達の大量かつ長期間の先進地研修を含めた再教育を行うこと。」というくだりが，重要項目の一つとして含まれていたことを付言して，C氏に対する感謝の言葉に代えたい。

〔所　報〕

○1979年4月1日，新年度を迎え，社研運営委員会および事務局は次の所員によって構成されることになった。

運営委員会――所長・大友福夫，経済学部長・吉沢芳樹，第一部長（総合理論部門）・内田義彦，第二部長（現状部門）・三輪芳郎，第三部長（歴史部門）・古島俊雄，事務局長・加藤佑治，事務局長前任者・二瓶敏，所長委嘱・池田博行，石渡貞雄，佐々木金三，山田一郎

会計監査委員・今田治彌

事務局――事務局長・加藤佑治，財政担当・内田弘・失吹満男，研究会担当・宮田三郎・泉武夫・平川東亜，編集担当・森宏・津村英文・酒井進・小沼堅司，文献担当・鈴木直次・八林秀一

○第1回運営委員会の議にもとづき，次の2氏が新所員として委嘱された（6月23日付）。――作間逸雄（経済学部講師），須田美矢子（経済学部講師）

○第1回運営委員会の議にもとづき，次の20氏が所外研究員と研究参与に委嘱された（6月23日付――任期は1981年3月31日まで）。――打田畯一，江口英一（中央大学経済学部），金箱皐夫（労働省統計情報部），小林義雄（国学院大学経済学部），小林龍馬（立命館大学経営学部），斉藤公男（日本労働協会労働図書館），佐々木享（名古屋大学教育学部），島崎晴哉（中央大学経済学部），真保潤一郎，吉田暁（全国銀行協会連合会調査部），岨常次郎，長幸男（東京外国語大学），栂井義雄（松山商科大学），野原四郎（和光大学），平館利雄，細貝大次郎（拓殖大学商学部），森下澄男，山下不二男（中央大学経済学部・日本労働協会），森田桐郎（東京大学経済学部）

研究参与――山田盛太郎

○グループ研究・個人研究の助成，および実態調査について

第1回運営委員会で，今年度はグループ研究を活発化させる必要があることが確認され下記の通り，今年はこれまでより2件ふやし5件に助成することになった。また個人研究も下記の通り5件に助成することになり，いずれも所員総会で承認された。

1　グループ研究助成

(1) 「『資本論』と現代資本主義をめぐる諸問題」(坂牧三郎，泉武夫，内田弘，大西勝明，小沼堅司，酒井進，沢野徹，鈴木直次，田口冬樹，常行敏夫，水川侑，溝田誠吾，矢吹満男)

(2) 「地域社会の変動と住民の生活構造——東京都狛江市における事例研究——」(西川善介，宇都栄子，加藤幸三郎，柴田弘捷)

(3) 「国際経済の現状と歴史—国際金融を中心に—」(鈴木直次，殿村晋一，溝田誠吾，土方保)

(4) 「ケインズ理論と現代経済の諸問題」(吉岡恆明，森下健三，平川東亜，中島厳，黒田彰三，作間逸雄，須田美矢子，蔵下勝行，池本正純，斉藤高志，伊東洋三，森宏)

(5) 「社会思想史の諸問題」(内田弘，小沼堅司，酒井進，沢野徹，常行敏夫，望月清司，八林秀一，吉沢芳樹)

Ⅱ　個人研究助成

(1) 池田博行「東および東南ヨーロッパ地域における交通政策史」

(2) 田口冬樹「戦後日本の流通機構分析」

(3) 西岡幸泰「福祉・医療の『産業』化の実証的研究」

(4) 森　　宏「米材輸入の市場構造分析と今後の望ましい輸入の在り方を求めて」

(5) 八林秀一「帝政期ドイツの手工業とイヌング」

Ⅲ　実態調査について

実態調査も今年度から本格的に活動を開始するので，今年度は増額し100万円を支出することにし，総会で決定された。

○定例研究会——5月15日(火)，午後4時30分より，生田校舎第1会議室，報告・マーチンコリック氏(シェフィールド大学日本研究所シニアー・レクチュラー)「最近におけるイギリスの労働組合と政治」。7月3日(火)午後2時40分より，生田校舎第1会議室，報告　土井正興氏(本学文学部教授・歴史学担当)「元号法制化の現段階的意味」(なおこの研究会は現代文化研究会との共催でおこなわれた)。

○夏季合宿研究会——7月21日(土)～7月22日(日)　Ⅰ．石渡貞雄著『経済学の危機』合評会，評者・望月清司氏，吉岡恆明氏(7月21日(土)午後1時30分～5時30分)，Ⅱ．三輪芳郎氏「アメリカ乳牛生産の実態」(7月22日(日)午前9時～12時)。

○文献担当本年度活動計画

①　文献整理

「カードによる検索」

配列：総記(辞典)。統計，白書，史料，雑誌，単行本〔英(洋)，和，アルファベット著者別〕

→長期にわたって継続されるため，できるだけ単純な配列方法が望ましい。

・本年9月頃より，アルバイトを用いて，カードを作成。それに従って，書架の再編を行なう。

② 文献購入の方針

i）統計，白書類の欠号補充，ならびに希望に応じて新規統計等の購入を優先する。

ii）学術雑誌，とくに交換で入手できないもののうち，市販されているものについては希望等に応じて購入する。

例）東大『経済学論集』，法政『経済志林』など。

iii）単行本については，特に希望のあったもの以外はできるだけ購入を避ける。但し，史料や還暦記念論文集ならびにMEGA等の基本文献，全集等は優先的に購入する。

③ 本年度の購入計画

(1) 固定的な経費　　約 250,000.—

（継続購入）

雑誌；エコノミスト，東洋経済，世界，思想，経済評論，現代経済，季刊理論経済学，賃金と社会保障，Survey of Current Business, Economic Indicator

全集；MEGA，Keynes

史料戦後30年史

岩波　経済学辞典

(2) 所員からの希望　　約 200,000.—

(3) 統計，白書類の補充

(4) 雑誌交換に伴う通信状の作成

(5) 廃棄方法

雑誌バックナンバー

なお，この計画は，6月30日の所員総会で承認された。

○『社会科学年報』第14号は次の構成で進行中である。

（論　　文）	石渡貞雄「現代資本主義における資本の発展とその分解および回帰」	100枚
	内田　弘「『経済学批判要綱』資本回転＝蓄積論の解析」	100
	斉藤高志「行動科学的労務管理論の意義と限界」	70
	柴田弘捷「現代日本の労動者意識の分布と問題点」	100
	玉垣良典「スタグフレーションと景気政策」	50
	吉岡恆明「X効率と経済理論」	60～70
（研究ノート）	奥田和彦「生活構造論の再検討」	40

山田一郎「Weyermann/Schänitz の私経済学」　40
（書　　評）森川喜美雄著『プルードンとマルクス』　20
別に英文レジメ，所報　計 590

○第33回定例所員総会

6月30日（土）午後2～5時神田校舎12A会議室において第33回定例所員総会が開かれた。総会は，1. 所長挨拶，2. 報告（新所員・所外研究員の委嘱），3. 議題 (1)1978年度事業報告ならびに決算報告，(2)1979年度事業計画案ならびに予算案の順序で進められいずれも原案が承認された。

なお討議の中で今年度は実態調査を本格的にすすめるが，この場合各チームやチームにとくに加わらないが個人として調査に関心をもっている人々との連絡を密にするために，調査センターの機能も充分に生かす必要があるなどの意見が出され確認された。

○本年度特別事業として『社会科学年報』第8号『特集・日雇労働者』部分を，『社会科学研究叢書第二号』として再刊することがすでに前年度から決定されていたが，このほど江口英一・西岡幸泰・加藤佑治編著『山谷―失業の現代的意味―』（A5版，未来社刊）として6月25日付で刊行された。

○大島太郎所員（本学法学部教授）には本年3月31日腹部大動脈りゅう破裂のため自宅で死去されました。つつしんでご冥福をお祈り申し上げます。

○鈴木浩次所員（本学商学部教授）には本年5月15日咽頭腫瘍のため東京大学附属病院で死去されました。つつしんで，ご冥福をお祈り申し上げます。

（編集後記） 今月は1977年10月，1978年12月に引き続き，森宏所員の牛肉シリーズの第3弾をお届けする。著者の言によると，これで「打ち止め」とのことであるから，アニメ風にいうとさしずめ「さらば牛肉問題」ということになろうか。牛肉といえば，政策構想フォーラムの即時輸入自由化論を思い出す人も少なくないであろう。これまで，これに対する森氏の言及がなされなかったことに不審の念を抱かれた読者もあったかもしれない。本号では，この構想との関連も含めて，物価安定政策会議の専門委員会における審議過程ならびに提言にいたるまでの――実際にはいたらなかった――過程がかなりあからさまに語られている。日頃この種の機関に余り縁のない編集子などには大変興味深いものであった。（H. T.）

神奈川県川崎市多摩区生田4764　電　話（044）911―8480（内線33）
専修大学社会科学研究所
（発行者）大友福夫